



R.I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2391号

事務所 静岡県三島市泉町9-8
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210

会長 前田 博利 幹事 杉崎 亮慈



広重版画より 三島 朝霧

第2463回例会

2026.8.6晴

司 会

渡邊真生君

国歌斉唱

四つのテスト

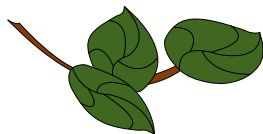
ロータリーソング

「奉仕の理想」
指揮 前田房江君

会長挨拶

会長 前田博利君

7月28日に発生しました熊本地震の災害の義援金依頼が、2720地区 令和8年熊本地震災害支援本部の人吉ロータリー、延岡ガバナーより2620地区を通して来ました。昨年の石川県能登半島地震の時は地震発生より数カ月後に義援金依頼が来たのですが、今回は迅速な依頼です。恐らく急を要する様々な事情や10年前に起こった地震の経験からか、兔に角速やかな対応に対する皆様のご寄付をお願いしたいところです。毎回の寄付依頼で恐縮ですが、どうか宜しくお願い致します。



出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	43/49	87.76%	45/49	91.84%
今回	45/50	90.00%	会員総数	54名

欠席者 須田君、諏訪部(照)君、諏訪部(行)君、古屋君、増田君

幹事報告

幹事 杉崎亮慈君

1. 本日の卓話、鏡 光隆君です。よろしくお願ひいたします。
2. 次回例会は、8月13日(木)呉竹にて夜間例会です。卓話は会員増強委員会の渡邊 聡委員長です。
3. 2027-28年度地区委員の推薦については、今回、応募がなかったため、推薦を見送ることとなりました。
4. 55周年事業として、10月3日(土)に、青少年奉仕および体験格差の是正を目的とした「みしまアーバンスポーツフェス」を開催いたします。詳細については、委員会報告にて加藤委員長よりご報告いただきます。
5. 10月8日(木)の例会を、いわゆるテーブル会形式の「テーブル会例会」として実施することが承認されました。各テーブルに分かれて共通の議題について話し合い、その内容をクラブ全体で共有することで、会員一人ひとりが意見を出しやすい例会とすることを目的としています。詳細については、小塚クラブ広報・DX委員長よりご報告いただきます。
6. 日韓親善会議が、2026年10月26日(月)午後1時から午後9時まで、神戸ポートピアホテルにて開催されます。申込締切は9月7日です。参加をご希望の方は、幹事まで。
7. 2027年「バルセロナ国際大会」について、6月25日(金)出発で、4泊・約70万円、または6泊・約97万円の行程が予定されています。意向調査の回答期限は8月14日です。参加にご興味のある方は、幹事までご一報ください。
8. 「熊本地震」への支援について、地区からの要請を受け、例会にて皆様からのご浄財をお預かりいたします。詳細については、職業・社会奉仕(アーバンスポーツ推進)委員会よりご案内いたします。
9. エンドポリオキャンペーン「会社deワクチン」についてご案内いたします。1口2,000円で、ご協力いただいた方には、A4サイズのマグネットステッカーが配布されます。ご協力いただける方は、幹事までご一報ください。

2026~2027年度
国際ロータリー会長
オンラインカ・ハキーム・ババロラ

CREATE LASTING IMPACT

卓 話

寺己紹介

鏡光隆君

本日は私の卓話を聞くためにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。卓話の題名の「寺己紹介」は、お寺のことも紹介したいと思い、寺と己とさせていただきます。私たちは同業者の間で名前を呼ぶときに、「鏡さん」ではなく「浄泉寺さん」とお寺の名前で呼び合います。「住職の存在はお寺そのものであり、別々ではない。住職の印象がそのままお寺の印象になる」ということです。

さて、私、名前を鏡 光隆と申します。お坊さんの名前と同じ漢字を音読みして「コウリュウ」と言います。お坊さんのなかには、俗名と法名が全く違う人もいますが、同じ方が役所や銀行の手続きが圧倒的に楽になります。

私は昭和52年11月30日に生を受けました。今年で49歳を迎えます。お坊さんの世界では「40.50はまだ小僧」という言葉があります。小僧の気持ちで謙虚にかんがりたいと思います。師父は昭和25年生まれ、団塊世代の終わりの人です。師父というのは、師匠であり、父であるということです。私のお寺は浄泉寺と言いますが、宗派は法華宗（本門流）という宗派です。似たような名前の宗派が沢山ありますが、簡単に言えば、日蓮聖人を宗祖に仰ぎ、御題目を唱える宗派です。本山は1カ寺あって、近いところで岡宮の光長寺になります。信長で有名な本能寺も法華宗の本山になります。

自坊のお寺の場所は長泉町の本宿と竹原の間くらい、特殊製紙の東側にあります。開創は1630年から1650年くらい、歴史があるように感じられるかもしれませんが、江戸幕府の寺請制度の影響によって大半の寺院はその頃の時期に建立されています。寺請制度も寺院の歴史の転換点と言えます。浄泉寺の縁起では、大雨が降ると黄瀬川の水が増え、岡の宮の本山から長泉より東側にお坊さんが行くことができないために、建立されたと伝えられています。いわゆる派出所ですね。ですから、基本的に檀家はあらず、明治時代の記録では軒だけでした。そんな住職もないお寺に、昭和20年私の祖父が赴任されます。私の祖父は明治の生まれ、山形市の出身です。農家の八番目の子どもでしたので、家を出て神主になるために修行に出て、詳しいききつはわかりませんが、その後、身延山に8年くらい修行に行き、戦時下になると兵隊として満州に行きました。退役した後に東京の真源寺さま（恐れ入谷の鬼子母神、朝顔市で有名）とご縁があり、法華宗の僧となって、命によって昭和20年に浄泉寺に赴任されました。仏像や仏具を運ぶために、リアカーを引いて、東京から長泉町を往復したらしいのですが、2度目にこちらに向かう途中、箱根から見た東京の空は真っ赤だったといいます。以来、農作業をしながら布教を行い檀信徒を増やして行かれたそうです。現在は檀家数150軒、信徒は100軒ほど、お寺としては決して大きいとは言えませんが、おかげさまで、副業をせずに生活させていただいております。

昭和の当時、お寺は年中無休で、夜中の2時でも電話があり、朝6時前でも玄関のチャイムが鳴りました。繁忙期は盆暮れ正月ははじめ土日ですから、小学生のころに家族で出かけた記憶がありません。子供のころに嫌だった記憶がありまして、そういう状況でも周りからはお坊ちゃんと言われ、「色んな所に連れて行ってもらえるお前の方がお坊ちゃんだよ」と常々思っていたのを覚えています。ですが、私の両親も必ずお坊さんにななさい、と言うわけではありませんでした。現に私が得度を行ったのは大学を卒業してからです。それまでは普通に髪があり、何なら染めていました。得度とは、剃髪して僧になるための儀式を行うことで、現在の日本では出家ではないのです。家を出ないで定住しますから。

話を戻します。長泉町立南小学生から長泉中学を経て、韭山高校に入学しました。ロータリーに入ってわかったことですが、鈴木正二さんのご息と同級生でした。

高校の思い出は何といっても3年生のときに甲子園に行ったことです。というと、私の風体から誤解されるのですが、私は野球部ではありません。中学から大学まで10年間卓球部でした。よく「勿体ない」といわれたものです。とにかく高校時代は体力があり余っており、長泉・韭山まで自転車通学し、野球の応援も愛鷹球場でも草薙球場でも友人と自転車で行きました。大学は立正大学という日蓮宗系の大学で学びました。2年間は埼玉の熊谷市、2年間は東京の大崎です。大学在学中は体育会の部活の他に体育祭実行委員なども行っておりました。私は皆で一つの目標に向かって何かを行うことが好きなので、自由な大学生となっても団体行動の制約が多かった気がします。

大学を卒業して22歳の4月から3年間、僧侶のための修行学校に入学しました。私たちの修行所は兵庫県尼崎市の町中にあり、滝に打たれたり山中を歩き回ったりしません。行いたいものは唱題行、ただただ正座をして大声で御題目をとる修行です。これがとにかく辛い。2時間の唱題行を4セツ、何か筋トレみたい言いかもしれませんが、声は枯れ果て、足は痛くてたまらなくなります。卒業するころには正座に適したきれいなO脚になりました。当時の修行所は簡単に言えば軍隊のような所です。1日中走り回り大声を出し、食事5分風呂5分、理不尽に追い込まれる生活でした。不平不満はありましたが、そこで感じたこと人間は本来もっともつと大きな力がある、可能性あるんだ、ということ。今まで、できるかできないかで考えていましたが、やっていけなかったということに深く気づかされました。その後は自坊に戻り、副住職として従事しておりましたが、師父の体調不良により、37歳で住職となっております。その間、結婚と離婚を経験しました。

基本的なお坊さんの仕事としては、葬儀や法事、月参りなどの法務、法事案内の発送や会計などの寺務、堂内外のそとなどの作務ですが、それでも私の自坊の規模では時間に余裕があります。そうすると、本山や大きな寺院の手伝いとか、宗門の様々な機関の仕事が回ってきます。私は特に宗門のことに携わっていき、いろいろなことを経験しましたが、宗門の布教機関紙である無上道の編集、全国檀信徒の布教を目的とした雑誌で、創刊号は昭和24年です。それから毎月発行しています。この編集は20代のころより携わっており、5年前より編集長として従事しております。

また、今年の1月より宗門の責任役員として宗門全体の運営に携わっております。これが大変でして、会社員ではないのに毎週のように出張があり、やるべきことが沢山ございます。不活動法人、いわゆる休眠寺院に対する文化庁の突き上げも益々厳しくなってきました。宗教法人の税務に関しても専門部隊が組織されたようで厳格になっております。そもそも、過疎地においては寺院の有続自体が厳しくなっております。また、全体を包括する立場とはいえ、通常の会社とは違い上司と部下の関係ではありません。各寺院の住職もやはり気位の高い社長様でありますので、私のような若輩の役員の言うことをきいてくれない方もいらっしゃいます。そんなこんなで、今年に入り例会も休みがちになってしまい本当に申し訳なく思いますが、私の前任の方も世田谷でロータリーに入っております。その時の総長も神戸のロータリアンです。ますます学ばなくてはならないことも多々ございますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

私は決して能力が高いわけではありません。背中を見せて「ついてこい」というタイプでもありません。それでも周りの人間に恵まれ、「鏡さんが言うなら協力するか」と言ってもらえることがとても有難く、うれしく思っております。思えば私の人生はこのような有難いご縁に恵まれてきたと感じます。今日はこの話しようと考えていたのですが、時間がございませんので、また次の機会にお話しさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

※紙面の都合で新会員紹介・会員慶事・スマイルは次号に掲載します。

(週報担当:勝俣辰伴)